

令和7年度 浜松市国語科研究部 第2回研修会

1. 日 時 令和7年8月1日（金） 9時30分 ～ 15時00分

2. 会 場 浜松市総合産業展示館

【全体会】

3. 内 容

（1）講話 「自己の学びを実感する国語科授業づくり」 常葉大学教授

浜松市国語部テーマ：自ら学び、「言葉の力」を実感できる単元の創造について。

- ① 「言葉の力」の実感とは、「僕にも言葉の力（国語力）が付いてきたな」という有用感や効力感のこと、つまり【メタ認知】のことであり、また、「言葉ってすごい力があるんだな」という言葉の働きや素晴らしさの実感する【メタ言語】が必要となる。
- ② 国語科における学びの実感とは、「発見・修正・解決・深化・拡充・活用・獲得・達成・満足」という8つの認識に分けることができるのではないか。
- ③ 学びを実感するカギは、読解表現力と対話にある。読む力とは、単にテキストに書いてある内容を正確に読み取るだけでなく、テキストに基づいて自分の考えや意見を表現することも含んでいる。この読む力を読解力と言い換えるなら、読解力とは、理解したことをもとに自分の言葉で表現するところまでを言う。また、自分の言葉で表現できてこそ、はじめて読解したことになるのであり、書かれている内容を理解しているかどうかは表現によって確かめられると言っても過言ではない。
- ④ 学習指導要領では、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。「考えの形成」とは、文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することを示している。文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことについて基づいて、自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくことである。
- ⑤ 論理的な思考力・表現力の育成に向けて、主張（意見）、根拠、理由付けの3点セットで伝える努力をする。根拠とは客観的な事実やデータであり、理由とは根拠となる事実、自分なりの意味づけ・価値づけや解釈、推論を加えて、意見とつなぐ働きをすることである。根拠が同じでも理由が違っていたり、根拠が同じでも結論が違っていたりすることもある。これを説明することで、個々の多様性が明らかになり交流によって考えが変容することが期待できる。

つまり、「学びを実感させる」には、自分の言葉で自分の考えを理由と根拠を明確にしながら表現（記述・口述）させ、それを交流し、自分の考えを広げさせることが大切になる。

【ブロック別研修】

(2) 1学期の実践報告・第3回授業公開に向けた指導案検討

ア. 運営方法

ブロックごとに会場を分け、第1回研修会のグループによる実践報告と、第3回研修会の指導案検討を行った。

イ. 授業実践報告

- ・国語科研究部の3つの視点に関わる授業実践について、同学年グループで交流した。
- ・参加者から「第1回の研修会を受けて、学びの調整を取り入れた場面設定を単元を通して行ってみた。」「『言葉による見方・考え方』を働かせる学習課題、言語活動を設定するために、単元構想を工夫してみた。」「学びを実感させるために、既習事項との関連性を高めてみた。」という声が聞かれた。
- ・午前中の中村教授からいただいた講話をもとに、「学びの実感」を再確認し、1学期の実践に対する成果や課題についてまとめた。

ウ. 指導案検討

- 1 ブロック：富塚小教諭 「未来につなぐ工芸品」
- 2 ブロック：大瀬小教諭 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」
- 3 ブロック：中瀬小教諭 「伝記を読み、自分の生き方について考えよう」
- 4 ブロック：都田小教諭 「自動車くらべ」

- ・事前に配布していた授業構想について、授業者に説明をしていただいた。その後、授業展開において悩んでいる点なども伝えてもらい。全体で検討及び助言を行った。
- ・「小学校教材の取り扱いが分からない」という思いを抱いてしまう中学校教員も多かったが、教材だけを見て、どういう単元構想がいいのか、この教材で国語部としての研修テーマをどうクリアにしていくかについて活発に意見交換を行った。
- ・生徒の実態に応じた個別の支援をどこまで行っていけるのか、単元計画の時数の中で、教員の目指す姿までもっていけるのかなど、疑問点もたくさん挙がった。

本日の検討内容を参考に、第3回研修会では、授業を参観し、成果と課題についてグループ協議を行う予定である。